

第 33 回発表会 **日 時：2010 年 5 月 5 日** **発表者：竹田秀一**
テーマ：見学会をとおしてー博物館展示について思うことー

今回の発表会では 1 月 31 日に実施した「江戸東京たてももの園」への見学会を踏まえての発表を行った。江戸東京たてももの園は移築保存した建築物と生活再現を展示の中心としている博物館であり、野外博物館の 1 つでもある。今回の発表では、特に生活再現展示が持つと考えられる問題点を中心として参加者で議論することが出来た。

生活再現展示の持つ問題点とは、あたかもそこに再現された展示が、再現している時代の全てであり、絶対的なものであるという印象を与えてしまいかねない部分にあるように考える。生活再現展示とはあくまで展示を作成する側のスタンダードであり、その時代の全てが描き出されているものではないことを理解する必要があると考える。そのような点から私の意見としては来館者にどのような形であれ、そこに展示されているものは絶対的なものではないことを伝える必要があるように考えている。以上が今回の発表の概要である。

発表会の参加者には博物館で働いている方もおり、展示を作る側からの貴重な意見を聞くことが出来た。博物館への関わり方によって、対象の見え方は異なることが改めて理解できた発表会となった。今回の発表会の内容を踏まえた上でより多角的にこのテーマに関して考え、もう一度このような機会に発表したいと考えている。

【歴史民俗資料学研究科 修了生】

第 34 回発表会 **日 時：2010 年 7 月 30 日** **発表者：佐原 慧**
テーマ：旧石器ハテナ館の整備・運営についてー学習館としての役割

今回、私が勤務している「史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）」の整備・運営について発表を行った。当館は 2009 年 4 月 1 日、国指定史跡である「田名向原遺跡」のガイダンス施設として開館した。全国的にも珍しい「旧石器時代」を中心とした施設であり、約 2 万年前の後期旧石器時代の住居跡とされている「住居状遺構」を中心に、周辺地域で発見された縄文以降の遺物も合わせて展示している。また館に隣接している「遺跡公園」内には、「住居状遺構」や竪穴式住居、古墳等が保存・復元されている。

当館は「学習館」といった名称からも読み取れるように、体験学習に特化した施設である。これは「来館者が自発的に課題を発見して学習する」といった基本理念がもとになっている。体験学習の内容としては、石器・土器・矢じり・勾玉作りの四つの定例体験を主軸に、弓矢作り・古代生活体験・どんぐりクラフト・お泊り体験・ナイトミュージアムなどの各種イベントも盛んに行っている。

また今年度より市内小中学校への「出張授業」に力を入れ始めている。教育現場における博物館利用の必要性は、ほとんどの先生方が「必要である」と考えているが、授業数の増加により、博物館に足を運ぶ時間がとれないというのも事実である。

このような教育現場の現状を踏まえて、当館では出張授業に力を入れることとなった。出張授業に関しては、ただ授業を行うのではなく、学校側との綿密な打ち合わせをおこない、独自の指導案・教材を作成するなど、より内容の濃い授業作りに力を入れた。

当館は体験色の強い施設である。しかし開館当初は館としての方向性が定まっておらず、ほぼ手探り状態での運営であった。試行錯誤を繰り返し、さまざまなイベントを行っていく中で来館者や学校側が「学習館だからこその体験」を求めていることが少しずつ分かってきた。当然のことではあるが、その館の特性をいかに引き出す事が最も重要であり、当館においてそれが「他館にはない周辺環境を生かした体験学習」であった。

今回の発表会では、博物館という施設はどのような機能を求められて、それにどのように答えていくか改めて議論することができ、大変有意義な発表会であった。

【歴史民俗資料学研究科 修了生・
史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館 学習指導員】